

## 公立八女総合病院

研修医 堤 真宏 2016年11月

11月に研修をさせていただきました、公立八女総合病院の堤真宏と申します。私は、福岡県の久留米市で育ち、大学も久留米大学を卒業し、研修も久留米の隣の八女市で行っています。今回出水総合医療センターが地域医療研修で選択できることとなり、まったく別の環境を経験したいという思いもあり、研修をさせていただきました。

1か月間、様々な部署でどれも新鮮な経験をさせていただきました。簡単ではありますが、各研修先について研修内容の一部を書かせていただきます。

まず、野田診療所ではエコーや内視鏡の検査を実際に経験させていただき、スクリーニング検査をする上でのポイントを的確にご指導いただきました。高尾野診療所では、実際の外来診療を経験させていただきました。実際の再診外来は初めてで、限られた時間で必要な情報を聞き出しそれに対して適切に対処することは難しく、自分の知識不足も実感しました。また、初めて訪問診療に同行しました。交通手段がない方や、在宅で療養を続けている寝たきりの患者さんの診察をし、今後さらに高齢化の加速や制度改革で在宅医療の必要性はさらに高まり、体制づくりの重要性を感じました。

出水保健センターでは、健診や相談事業で多くの幼児と接する機会をいただきました。このような取り組みで、子育ての不安軽減や発達障害などの早期の拾い上げができ、安心して子育てができる環境づくりがなされていることを知りました。

院内では脳神経外科で研修し、外来、救急、手術と様々な経験をさせていただきました。頭痛や、外傷の初期対応や、脳血管障害の患者さんの急性期の管理から回復期のリハビリ、その後の社会復帰に向けての流れなどとても多くのことを学びました。特に、深夜からの緊急手術の経験は印象深かったです。前医が対応困難とのことでの転院搬送で、地域医療が抱える医師不足の問題も垣間見ました。また院内の多くの部署でも研修をさせていただき、身体拘束や片麻痺の体験など普段はなかなかできない経験もさせていただきました。

上場診療所では、本当に医療資源がなく驚きました。すぐ検査ができることに慣れていて、問診と身体診察だけで患者さんの状態を判断せねばならない、へき地医療の実際を体験させていただきました。

ここに書き切れないほどに多くの経験をさせていただき、とても密度の濃い1か月を過ごすことができました。最後になりますが、日常業務のお忙しい中、研修に時間を割いていただき、とても丁寧にご指導いただきました先生方、スタッフの皆さまに御礼申し上げます。今後の研修や医師としての人生に必ず生かしていきたいと思っております。ありがとうございました。